

日教組 両性の自立と平等をめざす 教育研究会

8月3日（水）・4日（木）、日本教育会館にて、「2016年度 両性の自立と平等をめざす教育研究会 ジェンダー平等教育をすすめるよう～知る・気づく・動く～」が開催されました。

1日目

國學院大学教授の水無田気流さんが「日本型ジェンダーセグリゲーションの問題点を考える～『関係貧困』と『時間貧困』～」という演題で講演を行いました。女性が社会で活躍するためには女性を企業のメンバーにし、男性を地域社会のメンバーにすることが大切で、男女問わず総合的な働き方・暮らし方の見直しが必要であると述べられました。午後は、シンポジウム「わたしたちの働き方改革～ジェンダー平等教育をすすめるために～」が行われました。大阪教組勝部尚子さん、武蔵大学田中俊之さん等による意見交換がされました。



國學院大学教授 水無田気流さん

<参加者の感想>

- ・水無田気流さんの講演を聴いて、男性も女性とは違った迫害を受けているのだなあと感じました。仕事以外の関係を持ちにくい男性。それを**関係貧困**と名付けていた。それに対して女性は、**時間貧困**。共働きなのに家事・育児に追われて忙しいにもかかわらず、当然とされ、忙しいとさえ認識されていないような。しかも安倍首相の「**女性活躍推進法案**」は、男性の協力以外あり得ないのに男性の働き方には言及していない法案だと思いました。

2日目

4つの分科会に分かれ

- ①ジェンダー平等教育を考える～少数者問題は多数者問題～
- ②学校現場の労働問題～法律の活用とジェンダー～
- ③男性とジェンダー～男性教員にとってのジェンダー平等～
- ④若者のゲイとHIV～そのリスクと背景～

について、熱心な議論が展開されました。



<参加者の感想>

- ・「ジェンダー平等教育を考える」の分科会に参加して、「LGBTのことを知らないということが、結局は当事者を苦しめていることにつながる。」「心のノートの『異性に興味をもつことは自然なこと！』の表記は同性に興味をもつことは異常なことと当事者は受け止める。」の2つが心に刻まれました。平等という観点で教師はどう指導すべきか考えさせられた研修でした。
- ・「学校現場の労働問題」の分科会に参加して、両性の自立と平等をめざすために、社会制度として、雇用や育児など性別によらない雇用環境を改善していくことが必要である。また、学校では**性別で区別する必要もないのに区別することが差別**であるという視点から、男女混合名簿の導入や心身になんらかの障がいを抱えた児童生徒やLGBTと総称される性的マイノリティの児童生徒など人間の多様性を尊重しつつ、ともに学んでいく教育を推進していく必要がある。男性だから、女性だから、障がい者だからというような発想が、**隠れたカリキュラム**として、学校にあるのではないかと見直してみる必要を感じた研修であった。